



2018-2019年度国際会長スローガン We Serve 「ウィ・サーブ」

地区ガバナー基本方針

地区ガバナーエレクト L木村 英俊

ライオンズクラブ国際協会333-C地区 2018-2019年度ガバナーズローガン

人が集い 心がふれあい そして笑顔が生まれる -原点回帰-

1917年に誕生したライオンズクラブは、100周年のレガシープロジェクトをはじめ、あらゆる記念奉仕事業は前後2年をはさんだ4年間に盛大に実施されました。

さて、次年度はいよいよ、次なる100年に向けた、新たな第一歩であると信じています。

次年度は、ライオンズクラブ100年以上の歴史の中で、初めての女性国際会長の誕生です。お名前は「グドラン・ビョート・イングバドターさん」です。ヨーロッパ諸国から遠く離れた北極圏に近い海上に浮かぶ、北海道よりやや大きい島国、人口は34万8千人程の小さなアイスランド共和国の出身です。

100周年を終えた本年度から3年間は、国際会長スローガンは「We Serve」

ラスベガス国際大会前でのDGEセミナーでは次期国際会長としての新たな方針が話されると思われま。特に初の女性国際会長とし、男性会長には目が行き届かない様々なアイデアが飛び込んでくる事も十分考えられます。会員の皆様に国際会長方針に従い、それを、理解し、地区内の会員の皆様に正確にお伝えして行く所存です。

まずはじめに、地区ガバナーとして私の基本的な方針をお話したいと思います。

今私達は、大きく変化する時代の中で、共に生き続ける、そんな奉仕の形を作って行かなければなりません。私達すべてのライオンは、健康と洗練された精神、惜しみない努力のもと、真心を持って、ライオンズクラブの奉仕活動をさせて戴いています。

今や地球人口は70億~72億人と言われています。

私達のような、安全な地域を獲得しているのは、ほんの一握りであります。

貧困や紛争の中、人間としての尊厳を失っている、大勢の人々の事を考えますと、胸に迫る思いがあります。

今、私が、このひとにぎりの存在で有ることに深く感謝し、これまでの経験を生かし、精一杯頑張っ参ります事を、皆様にお誓い申し上げます。

大きく分けて、3つの事を進めて参りたいと思います。

①まずは、感謝の心。私は「今の幸せに、感謝の心を持って、社会にお返しする」つもりで、今まで以上に、研鑽を重ねて参ります。

②次に、私は「経験豊富な、いわゆる、ベテランライオンの能力」、「しなやかな思想を持った、これからの若い、新時代のライオンの能力」、「華やかで、優しい女性ライオンの能力」、「理解が最も深い、家族ライオンの能力」、この能力の融合を目指し、すべてのライオンが、さまざまな視点や意見を、まじえ、バランスのとれた、クラブ活動と民主的な地区の運営を目指します。

③そして、3つ目は、私は、こまやかな、ライオンズコミュニティーを地域社会に広げるために、より多くの同志や、後継者を育て、人と人との信頼をつなげる手段として、情報の共有化や、クラブ間の交流を促進して参ります。

現在では、想像を絶する速さでIT化が進み、これを利用しないと先に進まない時代となりました。

便利なツールは使いながらも、原点は、フェイス TO フェイスの、対面して会話する、心と心のつながりが、基本であると考えます。

日本は、2020年の、東京オリンピック・パラリンピックの開催を前にして、ますます、国際化が求められて来ると思います。

これらの貴重な体験を元に、ライオンズクラブを、さらに、より良いものとする為に、強い意志を持って、これからの一年、頑張っ参ります。

このご縁を大切に皆様のご協力を戴きながら目標に向け努力し、素晴らしい成果を皆様と共に喜びを分かち合いたいと願っています。

地区運営の重点目標

次なるステップへの確立を目指して

人が集い 心がふれあい そして笑顔が生まれる — 原点回帰 —

人が集まれば、おのずと心がふれあい、相手を思いやる気持ちが伝わり、そして笑顔の奉仕活動を進めたい。

1. 会員増強

- ・いかなる時代であっても奉仕の担い手である楽しい仲間を増やす事が、地区ガバナーとしての宿命であり、実施して行かなければならない最重要課題です。
- ・新クラブの結成・エクステンション
人口10万人を越える行政単位の地域で10数名のクラブが1つでは奉仕する担い手が少なすぎます。
- ・地区内の女性会員比率を30%まで持って行きたい。
女性ならではの決め細やかな奉仕は男性会員だけのクラブでは想像もつきません。
- ・家族会員の理解、そして支部結成へ

2. 指導力育成

- ・ゾーンやりジョンを越えた新入会員研修会の実施
- ・レオ、YCE、クエストをはじめとする青少年育成事業へ積極的に関わりたい。

3. 委員会活動の重視

- ・単年度制の委員会活動の中、責任者である委員長はもとより、副委員長の役割、責任を重視したい。
- ・あらゆる研修会、研究会には、出来る限り大会議室を用意しました。(参加目標は200名以上です。)
今まで参加されているクラブはもちろん、何名かずつ参加されているクラブも倍増してみてください。
「百聞は一見にしかず」です。必ずやクラブ活性化につながるものが得られると思います。

4. ライオンズクラブ国際協会の一員として

— 原点回帰 — をうたっていても、国際協会からは新プラン、変更点が次々と伝達されます。これらをいち早く会員の皆様に正しくお伝えし、理解戴く様に啓発活動を積極的に展開して参ります。

5. 地域社会との連携とPR

一人の力では何もできなくても、クラブが1つになり、又、他クラブとの合同、そしてゾーンやリジョンを越えたアクティビティーは必ずや、市民の共感を得られます。

上手に一般市民、マスコミ各社、SNS等でPRして参りましょう。

6. ー原点回帰ー

地区内の奉仕の原点でもある献血推進活動、千葉県アイバンク協会、日本網膜色素変性症協会（JRPS）にも力を注いで参ります。

7. 災害支援

災害は予告なしに発生します。

地区緊急災害対策本部と災害支援委員会を中心に日頃からの準備を怠りません。

8. LCIF

次年度にはLCIFが50周年を迎えます。

そして、LCIF大型キャンペーンがスタートします。

今まで以上にLCIFへの理解を深める努力をして参ります。